人生を拓いてくれた「珠玉の言葉」1982 年

１９８２．２．１２　人間的魅力の研究より

- 人は必ず陰徳すべし。陰徳を修すれば、必ず冥加顕益あるなり
- 自分はいいことをしたのだ、という自己満足を抱くと、これはなかなか抜けない。どうしても人に知らせたいと思う。そこに危険なわながある。
- いいことをする時は恥ずかしいと思いながらせよ。それがないと相手に負担を負わせることになる。
- 友を選ぶ場合には、何より気質、性格が合うことを第一として、主義主張の合う、合わないは第二にすべき。
- 主義だとか、主張だとかは、それを信じている時には、きわめて強いもののように思われるが、一朝にして変わってしまう危険性もある。
- 何事かを成しとげるのは、その人の才能でなくて性格である
- 本業の禅坊主というものは、あっけらかんとしているものです。毎日毎日きちんと座禅をやっているくせに、座禅など組んでいるようなことは一言も言わず飄々としている。
- 歴史を無視すれば歴史に処断される
- 思考の三原則
  - ①　目先にとらわれず、長い目で見ること。
  - ②　物事の一面だけを見ないで、できるだけ多面的、全面的に観察する。
  - ③　枝葉末節にこだわることなく、根本的に観察すること。
- 人間、一人一人は、皆運命をもっているということです。何事も運命にまかせて、何もしないのではないけれど、あるところから先は人間の手の届かない運命があって左右される。人間は運命を背負っていると思うんです。
- 為政者は「在って無い」のがいい
- トップの存在はシャッポみたいなもので、軽ければ軽いほどいい

１９８２．２．２３　（出所不明）　母の病床にて

- 玉は琢磨によって器となる。人は練磨によって仁となる。
- 人を育てるということは自分の身をも育てること。
- 君子は器ならず
- 同じ性格のものが三人団結しても、それは「和」にすぎないが、それぞれ違う性格のものが団結した時には「噴」の形で大きな力となる。

  ３＋３＋３＝９　　３×３×３＝２７
- 人を抜擢する時には「退を好む人間」を

・　二兎追うもの一兎も得ず

１９８２．３．２　　般若心経を読むより

・　陰気な人間は、どこか、自分のことばかり考えこんでいるのである。やれ、自分はつまらない人間だとか、罪の子だとか、生きていたってしょうがないとか、いろいろ御託を並べるのであるが、それなら罪を恥じ、生きていることを恥じて食でも断つかと思えば、そういう人間に限って人一倍むさぼり食らうのである。だからそんなのは口の先だけである。

１９８２．３．９　歎異抄入門より　父１３回忌

・　よしあしの文字しらぬひとはみな　まことの心なりけりを　善悪の字知りがほはおほそらごとのかたちなり
・　すべての人間は小ざかしいから、その小知をふりかざしていっさいを裁断しようとする。
・　私たちが、自然の中にいるとき、深いくつろぎを感ずるのは、木にも草にも花にも、はからいがないからである。
・　野の鳥をみならえ　（キリスト）
・

１９８２．３．　　中日新聞３月３日版　松田襄「貧困の中の健全さ」より

・　インド人の貧しさそれは真実であろう。だが日本の現実と比較した場合、いろいろ考えさせられることが多い。牛糞を手で集めている少女を、不潔と貧困の象徴のようにながめていた私だが、幾度かインドへ入るうちに、その光景から健康なにおいを感じるようになって来た。むしろ日本のあちこちガソリンスタンドに群がる若者の姿こそ、精神的貧しさと、不健全さを見るのである。
・　西欧文明に追随するあまり、日本は何か高価な「忘れ物」をしているのではないかと、ふと考えさせられる。

１９８２．３．１１　　われら何を掴むか（障害者の手記）より

・　何事か困難なことにぶつかったり、くよくよ考えた時、空を見ます。夜空に無数の星が輝いています。人間のちっぽけな悩みなんか、この広い大宇宙から見れば、物のかずではありません。
・　私には私の人生がある。と思うと楽しくなってくるのです

１９８２．３．１７　出口日出麿呂　生きがいの探求より

・　多く観　　よく観　　多く聞き　　よく聞き

多くかぎ　よくかぎ　多く味わい　よく味わい
多く触れ　よく触れ　多く思い　　よく思い
もって悟るより他に方法はない

- 自分の手で自分の口にはこび　自分の胃腸で消化せねば　自分のものにはならぬ
- 省みることを怠る人ほど　始末におえぬものはない
- 何をしても、興味を持てば幸福だ
- 生きていることの面白さは　自分が絶えず　何かを発明・発見・創造するうれしさである。

１９８２．９．９　　柳田国男　日本人より

- この長い歴史の中に包含されている民族的な弱点を各人に意識させることから始めなければならない。
- どうしても今のうちに学問の仕方や、人間生活の方針や考え方を改めていかなければならない。
- 大勢論者というものを批判してみる必要があると思う
- 人を押しのけてでも前に進んでいなければ、当然受けるべき恩恵も受けられないという焦燥にかられて生きている。
- この思いがけない人口の増加というものは、国内の闘争を激しくするのみならず、ことによっては昔から持っていた愛他心、すなわち見ず知らずの人間でも心を動かせば助けてやりたいという心持をそぐことになりはしないか、これはたいせつな目前の問題である。
- 日本人は元来小さな社会の中にこうした外部の制裁に基いて自己を形成してきたのである。
- 筆者はやはり歴史の学問が重要だと考えている。・・中略・・人間が形成する社会生活の中で、客観的に自分のなすべきことを悟り得、また素養と知識とをもって次の判断を正確にすることにある。
- よく生きる、正しい社会をつくる必要
- 日本人は非常に漠然とした概念をそのままうのみにして、早合点する傾向がある
- 日本人の欠陥として、自己に対する歴史的な自覚に乏しいこと。
- おそらく今日のわれわれほど、まじめに生きることの困難さ、苦しさを味わった時代は、かってないともいえるであろう。
- 人間だけが不安を自己のものとしている
- 古代農耕社会における生活と生命の不安と危機感に伴って、呪術および宗教の発現
- 今日の日本人の中核は、農村的人格型と考えられている

１９８２．９．１４　「日本人を考える」司馬遼太郎対談集より

・　人生に教科書はない
・　思春期に精神的発展に失敗する人を精神障害者　→　仲間を作れない
・　仲間を支えているのは同質性
・　不登校現象の家庭では、なかなか父親の話しが出て来ない
・　子供に、最初に体験する世界の切り開きは父親がやる
・　父親よ土俵に上がれ
・　若い人全員、個々に生きる目標を持たなければ、生きて行けない時代、今はじめての経験。
・　昔は生きる目標　→　食べる事
・　どう転んでも食えるという時代は、日本史上最初
・　若い人につける薬はない
・　人間はどんどん変化してゆく世界に身を置きながら、自分の歴史の中で安定したものを作り出さねばならない。それを作り出せないものは健康と言えませんから。
・　日本人は祈祷好き
　　尚武の国
　　派閥好き
・　日本は武によって統御すると、比較的安定する社会かもしれませんね。今は馴れぬながら文によって成立している。
・　友というものが日本にはあまり発達しなかった
・　友人のために死ねるのは中国人だけ
・　日本人は騎馬民族

１９８２．　人類学のすすめより

・　ただ学問を志すなら、面白いだけで終始していてはならないのは当然だろう。自分のしていることが、ずっと先の大きな目標のどこにどうつながっていくのか、はっきりさせていく努力を続けねばならないだろうし、周辺にあるもろもろの自然的、社会的現象との関係における、自分の志すものの位置づけをしなけりゃならないだろう。
・　ずれの存在がはっきりしたのならば、そのずれを埋めることを試みるのである
・　相手とうまくやって行く為には、ずれは少ない方が良い
・　ずれを埋めて行く過程を記録すること　→　文化人類学、社会人類学

１９８２．　「人を動かす」　Ｄ・カーネギーより

・　盗人にも五分の理

- 人をあざけることをやめ、どんな事があっても、人を非難することはなくなった
- 自己との戦いを始めた者は、自分が価値ある人間だと証明したことになる
- 成功の秘訣は「人の悪口は決して言わず、長所をほめること」
- 人を批評したり、非難したり、小言を言ったりするのは、どんな馬鹿にでもできる。そして、馬鹿者にかぎって、それをしたがるものだ。
- 理解と寛容は、すぐれた品性と克己心をそなえた人にして初めて持ちうる徳である。
- 偉人は、小人の扱い方によって、その偉大さをます（カーライル）
- 人を非難するかわりに、相手を理解するように努めようではないか。どういうわけで、相手がそんなことを仕出すに至ったかを、よく考えてみようではないか。
- 人間のあらゆる行動は、二つの動機から発する。すなわち、性の衝動と偉くなりたいという欲望。
- 自己の重要感　→　これが行動の基本
- シュワップ「私には、人の熱意を呼び起こす能力がある。これが、私にとっては何ものにも代えがたい宝だと思う。他人の長所を伸ばすには、ほめること、励ますことが何よりの方法だ。上役に叱られることほど、向上心を害するものはない。私は決して人を非難しない。人を働かせるには奨励が必要だと私は信じている。だから、私は人をほめることが大好きだが、けなすことは大嫌いだ。気にいったことがあれば心から賛成し、惜しみなく賛辞を与える」。
- エマーリン「人間はどんなことばを用いても、本心を偽ることはできない」。「どんな人間でも何かの点で、私よりもすぐれているーーー私の学ぶべきものを持っているという点で」。
- 人を動かす唯一の方法は、その人の好むものを問題にし、それを手に入れる方法を教えてやることだ。
- 例えば、自分の子供にたばこを吸わせたくないと思えば、説教はいけない。自分の希望を述べることもいけない。たばこを吸う者は野球の選手にはなれず、100㍍競争にも勝てないということを説明してやるのだ。
- 人間の行為は、何かを欲することから生まれる
- 人間の行動は、心の中の欲求から生れる・・・だから、人を動かす最善の方法は、まず、相手のことから考えて話すより方法はない。
- 利益と不利益を考える
- 自尊心　→　傷つけないように
- フォード「成功に秘訣というものがあるとすれば、それは、他人の立場を理解し、自分の立場と同時に、他人の立場から物ごとを見ることの能力である」。
- 世間には我利我利亡者がうようよしている。だから自分よりも他人のために奉仕しようとする少数の人々にとって、世の中はおそろしく有利にできている。つまり、

競争者がほとんどないわけだ。

- 我々は欲しい物が有れば自分で買う。売ろうとしている物が役立つことが証明されさえすれば、こちらから進んで買う。売りつける必要はないのである。
- 人の話を聞く
- 客の立場で考える
- 客の立場で結論が出せる
- 常に相手に重要感をもたせる事
- 女性に愛される方法
  別にむつかしいことは何もしません。相手のことばかり話していればいいのです。
- 人に好かれる方法
  相手に重要感を与える　→　しかも、誠意をこめてこれを行う。
- どんな場合も鋭角はさけた方が良い
- 議論に勝つ最善の方法は、議論を避けること
- 人間はむりやり納得させられても納得はしない
- 人間の心は議論によっては変えられない
- 無知な人間を議論で負かすことは不可能だ
- 釈尊「憎しみは、憎しみをもってしては永久に消えない。愛を持ってはじめて消える。」
- 相手の誤りを指摘しない
- 人を説得したければ、相手に気づかれないようにやることだ。誰にも感づかれないように、巧妙にやることだ。「教えないふりをして相手に教え、相手が知らないことは忘れているのだと言ってやる」。
- 「できれば、人より賢くなりなさい。しかし、それを人に知らしてはいけない。」
- ソクラテス「私は一つのことしか知らない。それは、私は何も知らないのだということだ」。
- 相手をやっつけるよりも相手に好かれる方がよほど愉快である

笠置シズコ

- 結論はね、歌でもなんでも人間性じゃないかな。温かさじゃないかなあ
- 今の人間は機械にふり回されとる
- 便利になり過ぎて、心が通じなくなりつつあるような気がするの。人間と人間との交流が。

１９８２．１２．３０　「気くばりのすすめ」より

- より先へ進むための必須条件　→　勇気・判断・洞察力

１９８２．１．２　若者と語る、いかに生き、いかに学ぶか　遠山啓　より

- ぼくは人生の目的は他人と競争することではなく、なにかの仕事　――　――　自分でなければできない　――　をすることだと思っている。
- 人間はみんな必ず死ぬ
- 人間はみんな死にたくない
- 全ての宗教は死の事実と不死の願望とのこの矛盾を解決するために生まれて来た
- 宗教を信じない人にも、この矛盾をどう解決するかという問題は宿題として出されているわけだ。
- その人の人生そのものが答案
- 俺は三流校へ行く。そこで低空飛行で卒業するつもりだ。三流校で低空飛行するつもりなら、楽だと思う。その暇におれは思うぞんぶん好きな勉強をするつもりだ。
- 三年間自分の好きなことをやったら、何かつかめると思う。つかめないかも知れないが、それでも、俺は後悔しないつもりだ。
- 後継者である自分の子孫を残すことによって、いつまでも生きつづけようとする
- なんとなく生きているのがつまらなくなったんだ。それ以上のわけは自分でもわからない。
- おなじクラスの中でもいろんな変わったやつがいるほうが面白い。そのかわり、つきあうのに骨が折れるよ。一人一人の性格を知って、調子をあわせていかなきゃならないから･･･。マジメ人間に冗談をいうと、カンカンにおこりだしたりするからね。
- 人間は自分をよく知っている人を憎むことができないものだ
- 歳とともに観・学・術は成長する
- すべての日本人が自分で創りだした、他人からの借り物でない観を持ち、自分の足で歩いていくようになりたいと思っている。
- 人びとが日常の談話のなかで、各自の観を出しあって議論をたたかわすような世の中になったら、なんと豊かな深味のある世の中になるだろう。
- 善悪の問題は生き死にの問題より弱い
- 悲しいことだが人間はそんなに弱い存在なのだ
- 弱国であることがなぜ恥で、強国であることがなぜ誇りなのですか
- 人間には仕事を目的とする人と地位を目的とする人と二種類あるようだ